

クラウドの複雑さを緩和する

ビジネスリーダーが考慮すべき 5 つの重要事項

クラウドコンピューティングは、生産性の向上、コストの削減、イノベーションの実現を推進し、企業に変革をもたらしています。

しかし、クラウドコンピューティングやクラウドストレージを導入すると、特にデータ管理において、複雑さが増します。ビジネスリーダーとしてクラウドフレームワークを構築および再構築し、目の前にあるチャンスを掴むには、より先進的なデータ管理モデルを導入する必要があります。

その実現に向けて考慮すべき重要事項が 5 つあります。



1. データ管理にコストがかかりすぎていないか

価格についてはクラウドサービスプロバイダと十分に協議したかもしれませんが、見過ごされがちな面があります。それは、バックアップと重複排除を考慮してフレームワークを最適化しなければ、データが必要以上に蓄積され、その分クラウドリソースを消費することです。企業ではサーバーやシステム間でデータがコピーされ、同じデータが散在することがよくあります。

事実: ベリタスの調査では、データ管理用のクラウドツールに支払っている費用を知って驚いたと回答した割合が 77% にのぼります。¹

戦略: どのデータを保持する必要があるかを正確に把握し、重複排除の手法を取り入れれば、データの負荷を軽減でき、二酸化炭素排出量の抑制にもつながります。



2. 無駄なデータが多いとリスクが高まる

データフットプリントが拡大し、データの分散が進むと、漏えい、破損、その他の障害のリスクが高まります。リスクの 1 つであるランサムウェア攻撃では、クラウドシステムが標的になることが増えています。

それだけではありません。同じくらい重要な二次的要因として、複数のクラウドにデータが散在すると、データを管理および保護するためのツールが増える傾向があり、しかもツール間に互換性がないことが多く、結果としてマルチクラウドフレームワークの可視性が欠如して、セキュリティリスクがさらに上がります。

事実: ベリタスの調査によると、企業ではデータの負荷が大きな問題になりつつあります。社内のデータの 50% が重複データ、古いデータ、または瑣末なデータで、35% がダークデータに分類されます。ビジネスクリティカルなデータはわずか 15% にとどまりました。¹

戦略: データフットプリントを削減するとともにデータ環境を単一の画面で可視化できるソリューションを導入します。



3. データの複雑さを軽減すればパフォーマンスが向上し、イノベーションが進む

データがたくさんあるほど高い成果が得られるわけではありません。大切なのは、データを効果的に活用することです。もちろん、データの品質を保つことは容易ではありません。マルチクラウドフレームワークで問題なのは、大量のデータをいかに効果的に検索、統合するかです。

クラウドプロバイダが提供するツールでは、このデータ品質の課題を解消できない場合がほとんどです。常に適切な情報に適時にアクセスするための方法は、企業側、通常はビジネスリーダーと IT リーダーが協力して考える必要があります。

事実: ベリタスの調査によると、「無料」のクラウドネイティブツールでは今日のマルチクラウドフレームワークに対応できません。ベリタスのソリューションなら、データを重複排除し、圧縮してから、安価なストレージ層に保存することにより、Amazon Web Services (AWS) の Deep Archive 層にスナップショットを保存する場合と比べて、保存するデータ量を 50% 削減し、ストレージコストを最大 99% 節約できます。²

戦略: 異なるクラウドベンダーに対応し、統合的なデータ管理フレームワークを提供するソリューションを導入します。このアプローチは、コンプライアンスの遵守にも役立ちます。



4. サステナビリティを後回しにしない

規模を問わず多くの企業がサステナビリティの向上に取り組み、ESG (環境・社会・ガバナンス) プログラムを立ち上げて、具体的な目標を設定しています。顧客や投資家も、購入先や取引先の企業に対して明確なサステナビリティ戦略の策定を期待し、求め始めています。

データ管理とバックアップのための最適化されたフレームワークを構築しないと、あらゆる取り組みでストレージやコンピューティングリソースが余計に必要になります。

事実: Gartner 社は、2025 年までにクラウド購入の判断基準トップ 3 にクラウドのサステナビリティが入ると予測しています。³

戦略: データフットプリントの削減とデータ処理に必要なリソースや電力の節約に効果的なデータ最適化フレームワークを構築すれば、すべての人の利益につながり、気候変動対策にもなります。



5. 効率的なデータフレームワークは、AI (人工知能)、ML (機械学習)、IoT (モノのインターネット) の導入効果を高める基盤となる

デジタルツインから、自律型ロボット、コネクテッドシステム、スマートオートメーションまで、最新デジタルテクノロジーの潜在能力を最大限に引き出すには、質の高いデータが欠かせません。同時に、クラウドでのデータ管理を中心に据え、それを進化させていかなければ、デジタルイノベーションやデジタル変革の効果は急速に薄れてしまいます。

事実: Gartner 社は、2025 年までにフルマネージド型の AI/ML 対応クラウドサービスの導入率が 100% に達すると予測しています。⁴

戦略: クラウド活用の目的が、コストの削減やパフォーマンスの向上から、より高度なデジタルイノベーションの推進へと変化するにつれて、より先進的なデータ管理フレームワークを構築する必要性が増します。自律型データ管理が可能な AI/ML 対応のクラウドサービスを追加すれば、マルチクラウド環境でセルフプロビジョニング、自己最適化、自己修復を活用したデータ管理を実現できます。

まとめ

企業にとってデータは最も重要な資産です。データを効果的かつ効率的に管理することはビジネスの成功に不可欠です。データ管理フレームワークを適切に設計すれば、コストの削減、イノベーションの推進、重要なビジネス目標の達成につながります。

コストを削減しながらデータ管理戦略を最大限に活用する方法について詳しくは、こちらをご覧ください:

www.veritas.com/solution/reduce-it-costs

¹ ベリタス/Vanson Bourne 社「脆弱性に対する遅れ」、https://www.veritas.com/content/dam/Veritas/docs/reports/GA_ENT_AR_Veritas-Vulnerability-Gap-Report-Global_V1414.pdf

² ベリタス「NetBackup 10 の Snapshot と Autoscaling でクラウド向けにバックアップを最適化」(2022 年)、https://www.veritas.com/content/dam/www/en_us/documents/technical-documents/TB_netbackup_cloud_optimized_backup_snapshot_V1510.pdf

³ Gartner 社「Gartner Says Three Emerging Environmental Sustainability Technologies Will See Early Mainstream Adoption by 2025 (2025 年までに導入が進むと考えられる新しい 3 つの環境維持テクノロジー)」(2022 年 4 月 21 日)、<https://www.gartner.com/en/newsroom/press-releases/2022-04-21-gartner-says-three-emerging-environmental-sustainability-technologies-will-see-early-mainstream-adoption-by-2025>

⁴ Gartner 社「Gartner Identifies Four Trends Driving Near-Term Artificial Intelligence Innovation (近い将来の AI イノベーションを促進する 4 つのトレンド)」(2021 年 9 月 7 日)、<https://www.gartner.com/en/newsroom/press-releases/2021-09-07-gartner-identifies-four-trends-driving-near-term-artificial-intelligence-innovation>

ベリタスについて

Veritas Technologies はデータの可用性および保護のグローバルリーダーです。複雑化した IT 環境においてデータ管理の簡素化を実現するために、Fortune Global 500 の 87% を含む、先進企業 50,000 社以上が、ベリタスのソリューションを導入しています。ベリタスのエンタープライズ・データサービス・プラットフォームは、お客様のデータ活用を推進するため、データ保護とデータリカバリのオーケストレーションを実現して、ビジネスに不可欠なアプリケーションの可用性を常に確保し、複雑化するデータ規制対応に必要なインサイトを提供します。ベリタスのソリューションは信頼性とスケーラビリティに優れ、500 以上のデータソースと 60 のクラウドを含む 150 以上のストレージ環境に対応しています。ベリタステクノロジーズ合同会社は、Veritas Technologies の日本法人です。

VERITAS™

〒107-0052 東京都港区
赤坂 1-11-44
赤坂インターシティ 4 階
www.veritas.com/ja/jp

各国オフィスとお問い合わせ先については、弊社の Web サイトを参照してください。
www.veritas.com/ja/jp/company/contact